

杉本家の年中行事

春

春を迎えた京町家 杉本家の庭には、椿、水仙、ヒヤシンスなどの花が咲きほころびます。

京都では、ちょうど桜が咲く頃の4月上旬にお雛様を飾るのがならわしです。（公開催しは3月開始）

雛の収められた箱の運び出し、飾り付けにはかなり手間がかかりますが、春に欠かせない女性にとっては、特に楽しい行事です。

【催し物】4月3日 桃の節句



京都では旧暦3月3日にあたる旧家では

この日に桃の節句を祝うならわしです。

雛人形、雛の道具類が収められているのは庭の

北西にある「中蔵」と称している土蔵です。

杉本家に伝わる内裏雛は2対あって、ひとつは

文政8年新調の雛、ひとつは明治27年、祖々母が

興入れの際に誂えた有職雛（ゆうそくびな）です。

【催し物】5月5日 端午の節句



桃の節句は旧暦でお祝いしますが端午の節句は

今のカレンダー通りに行います。前栽の新緑の

明るい照り返しに、有職人形の面差しがきりりと

映える5月の室礼です。

夏

町家の夏への準備は、建具を替えることから始めます。長年使い込まれた葎戸（よしど）は黒褐色を帯び、日差しをさえぎって室内に陰翳をもたらします。障子と襖の和紙がもたらす丸みをもった白い光の世界から一変します。葎の細い縦の陰からみる坪庭の涼やかさは、蒸し暑い京の家屋にあって、より際立ちます。

6月1日 室礼



涼を得るために、多くの襖や障子が取り払われ、簾戸（すど）や簾（すだれ）といった夏用の建具に代えられ、畳には網代（あじろ）が敷かれます。簾はその実用性だけではなく、前栽を透かすことで視覚的に涼感を得るといふ、先人の知恵なのです。

【催し物】7月4日～16日 祇園祭



京町家杉本家がある矢田町では、伯牙山（はくがやま）という昇山（かきやま）を出します。伯牙山は、中国の周時代、琴の名人であった伯牙が自分の琴を愛聴してくれた親友鐘子期（しょうしき）の死を嘆き、琴の玄を断ったという故事からとって、琴めがけて斧を振りおろそうとする伯牙が御神体です。

伯牙山のお飾り場として、毎年、通りに面した「店の間」に祭りに使われる懸装品が飾られ、道行く人の目を楽しませてくれます。

秋

草の陰から秋の虫の音が聞かれる風情が、戦前まであった土蔵の跡地に草木を配した前庭から見出せます。この庭のおかげで、部屋を飾る花には一年中事欠きません。

9月 室札



9月のお彼岸の頃には、夏用の建具から障子、襖へと再び建具替えを行い、10月下旬頃に火鉢を出すなど冬支度が始められます。

最近アイロンの熱で棧に紙が密着する手間いらずの障子紙もありますが、やはり、巻紙になった美濃紙を広げながら、棧の幅に折り返したり、寸法を切り整えたり、糊の固さを調整したりと手間をかけることが、暮らしの中にぬくもりを生むの

です。

冬

師走。13日の「事始め」を待って、京の市場には正月料理の材料が並べられ、正月の準備が進められます。25日頃には一年の埃を落とす大掃除を行い、あわただしく大晦日を迎えます。

12月31日 大晦日



正月料理の支度を済ませ、最後に走り庭を水で流し掃除を仕上げます。しんと冷えた空気には、もうそこまでお正月がきていることの神聖な気配が宿っているようです。

お正月



全て昔のしきたり通りにはいきませんが、お仏壇の御荘厳は、『歳中覚』の正月の頁に記された通りに準備します。

お正月のお雑煮は白味噌雑煮です。

またお煮しめなどのお正月料理のことは、お重に詰めることから「重詰め」といいます。